
ネコの恩返し

-聖-

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ネコの恩返し

【ZPDF】

Z3281D

【作者名】

聖
-
一

【あらすじ】

ノラネコのジョーは自由気まま。今日ものぞびりと町の中を歩き回る。そしていつもの公園でいつもの少女と出会う……。

ジョーは塀の上を歩いていた。

ぶつからないように尻尾をくいつと上にあげ、四本の手足をゆっくりと動かしている。

人間たちはそんな彼らの事を『ネコ』と総称するが、彼らにひとつはいい迷惑だ。ジョーはジョーであつて、『ネコ』という名前ではない。

その日の天気は晴れだったので、彼の自慢の黒い毛並みが太陽の光を浴びて美しく光っていた。

向かう先は特にないが、こうして気ままに歩いているは實に気分がいい。道路に出れば車や自転車も走っているが、人間の家を隔てる塀の上ではその心配もなかつた。

捨てられてからはや3年。だいぶ人間界でのサバイバル生活にも慣れてきた頃だ。

ふと、近くの家の縁側に鳥かごがぶら下がっているのに気づいた。そちらに目をやると、中に入っている九官鳥と目が合つ。

「ニヤーン……」（美味そうだな……）

一瞬近づこうかとも思ったが、確かにこの家には大きなレトリバーがいる。チワワぐらいなら相手になるかもしれないが、敵がそれ以上の大きさの犬であるからには近づくのは無謀というものだ。

（仕方ない。公園にでも行くか）

ジョーは九官鳥から目を離すと、近くの公園に向かつてゆっくりと歩き始めた。

公園にはイヌもないから安心できる……。

そう思いながら公園に入つた矢先、

「あ、ネコちやんだ！」

甲高い天敵の声がジョーの耳に届いた。

靈長類。ヒト科。体長140センチぐらいの子ども族。しかも今

の声はメスに違いない。

ジヨーは声の主をまじまじと観察した。

見覚えのある顔だ。マリとか呼ばれてこる、公園の近所に住む女の「だつた。

「ニヤーン」（じり、気安く近寄るな）

「わあ、クロウヤんだつたのね。おいで」

彼女はジヨーの「」とを『クロ』といつねで呼んでいた。過去にも何回か遭遇したことがあるが、取りあえずは人畜無害、いや、猫畜無害な人間だ。

マリはゆっくりとジヨーに近づいてくると、ジヨーの頭を撫でた。

「ニヤ～、ニヤ～」（あー、そのへん痒かったんだ。もつチヨイ上）

実のところ、ジヨーはこのマツとう人間が嫌いではなかつた。なぜなら、彼女はよくジヨーに食べ物をくれるからだ。

そしてそんなジヨーの期待通り、彼女はポケットの中からマシューを取つ出し、ジヨーの目の前に置いた。

少し匂いをかいだから、ジヨーがマシューを口へくわえる。

「ニヤニヤ？」（なんだこりや？ 柔らかくて食べづらいな）

「おこしこ？」

「ニヤ～～」（あんまり美味くないな）

「わあ、喜んでるみたい」

「ニヤー、ニヤー～」（じりり、尻尾を引っ張るな～）

「そんなどうして嬉しいな」

「ニヤ～～」（やめろつて、おまえ何か勘違いしてないか？）

マリが自分の体にペたペたとさわり始めたので、ジヨーは居心地が悪くなり、迫り来るマリの腕のをするりと抜けて距離をとつた。

「ニヤー」（まったく、怠慢の毛並みが乱れるだらうが）

マリが追つてこないのを確認すると、毛並みをせつせと整える。

（さ、行くか）

ジョーは遠くの方からこちらを眺めていたマリのほうに近づいて、腰を上げて歩き始めた。

考えてみれば、最近は海田アツヒattroで、

考えてみれば、最近は毎日マニアとしている気がした。

々が、まだ頭の隅に残つてゐるからだろつか……。

今の生活も悪くないが、帰る家がある生活も決して悪いものではなかつた。

(けつ、アホらしい)

一瞬でもそんな事を考えた自分自身に、ジヨーは嫌悪した。

用語スレード二
△間とは極めてない存在感の力

くじ起きた。

物置の上を通って、
つくるのが見えた。

(またあいつかよ……)

そう思いながらも、いやな感じはしない。
その時、ジョーの耳がピクリと動く。

耳障りな音が聞こえてきた。

車だ。それもかなり大型で、物凄いスピードで走っているようだ。

(あー、こりやぶつかるな)

このまま進行は曲がり角のところまで、車が止まると間違いなかつた。

シ トニ 材子材に がたり 眠ひて いふ
ニシニニレバ トニニテ トニは、 ハバ 用意二 効ハ一ハニ

塙の上を全力で疾走する。はたして間に合うかどうか、かなり微

好不距離 乃
ジ由 は屏の二八
マリ二回の
の事

「さあやめ！」

突然のジョーの出現に驚いたマリの足が止まる。

マリのせつときり前を通過していくトラック。

そして響き渡る鈍い音。

(間に合つた……)

ジョーがそう思つ間もなく、全身に今まで味わつたことのないような苦痛が駆け抜けた。

体が宙に浮いているのが分かるが、視界は完全に真つ黒。なにが起きたのかを考える余裕すらない。

そして次の瞬間には、ジョーの体は地面上に叩きつけられていた。

「クロスケ！」

マリが悲鳴に近い声をあげて近寄つてくるのが分かつた。

クロスケ。

聞いたことのある響きだ

(ああ、そういうことか)

数年前に居候していた家に、マリ「」という女の子がいたのを思い出した。そして、彼女が『クロスケ』とこの名を自分に与えたことも。

いわばマリは自分の飼い主であつたと同時に、自分を最も愛してくれた親でもあつたのだ。

(ま、こいつだつたらいいや)

ジョーは自嘲気味に鼻を鳴らすと、脳裏に小ちい頃のマリの姿を思い浮かべながら静かに瞳を開いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3281d/>

ネコの恩返し

2010年10月8日14時20分発行